



心豊かに育ちあう

沢の子

令和7年度 重点目標

“すすんで考え学びあう、
笑顔あふれる”
子どもの育成

余市町立沢町小学校 令和7年8月29日（金） 第5号

対話からの新発見

校長 森木 真也

30日間の夏休み期間が終わり、最も長い期間を学校で過ごす2学期が始まりました。子どもたちの声と共に学校に活気が戻ってきました。

暦の上では秋を迎えていますが、日中の残暑は続いています。今年は各地で猛暑日があり湿度が高く、例年に増して暑さの厳しい夏でした。本州から帰省した娘たちが「北海道に帰ってきた気がしない。」と口々に呟いていました。しかし、夏休み期間は大きな怪我や事故の知らせがなく、交通安全や水場での遊び等で十分に留意して夏を楽しんだ様子に安心し、2学期を迎えることができました。ご家庭や地域での声掛け、決まりごとの確認など、子ども達を見守っていただいたおかげです。そして、休み明けの子ども達の心にも寄り添っていただき、一人一人が元気に登校を続けています。大変ありがとうございました。

さて、1学期末に子ども達と職員の学校評価アンケートを行いました。どの項目も自己評価は概ね高評価でしたが、その中でも「できていない」とした評価項目があります。その中から以下の2点をお知らせします。（昨年度よりは肯定的評価は上がっているのですが、低い評価が続いている項目をご紹介します。学校評価の詳細は裏面をご覧ください。）

- ◎「発表するときは、みんなに向かって聞こえる声で話している。」「人の話をしっかり聞く。」
- ◎「自分にはいいところがある」

この2つについて、始業式で子ども達に話をしました。

「だれかに話し聞いてみる（対話する）」ことと「自分にはいいところがある（自己肯定感）」は繋がっていることです。30日間の休みの中で家族や親せきと触れ合い、今までは気づかなかったことを発見した人が中にはいることと思います。友だちも同じです。授業では「なかよしタイム」を設定しています。子どもたちはその中で課題解決のために「学び合い」をするのです。教え合いではありません。友だちの説明を聞いて新しい考えが芽生えたり、もう少しでわかりそうなときに同じように思っている友達と話していて「あ！わかった。」と解決に繋がったりする時間です。その中で、学習に向かう姿勢も同時に刺激になります。友だち同士で声の大きさや言葉選びなどの説明の仕方や話の聞き方も学び合っていきます。ものの見方や考え方の視点に触れ合うと深い学びにもつながります。

また、休み時間や放課後にも友だちの何気ない会話の中でも同じようなことが言えるときもあります。遊びの約束を話し合う、だれかを喜ばせようとサプライズを考える、意見が合わないからどこで折り合いを付けようか、助けたい人をどうやって助けられるかなど、思考を凝らし想像力を膨らませて友だちと交流を図ります。

つまり、対話を通して人と人が互いに成長に必要な刺激を与え合うのです。その中で、これまで気づかなかった友だちのいいところを発見することもあります。「いつもそうだ」「また同じこと言っている」という見方から、「今までこういう言い方ばかりしていたけど、そうやって考えていたからなのか。もっと聞いてみようかな。」に変わるきっかけも対話から始まることも多いです。そして、本人も気づかない良いところに目が行くようにもなります。言葉の端々から肯定的対話を受けると、互いに嬉しくなり安心感に繋がります。安心して「話す・聞く」を重ねていくことで、自己限定・自己否定することも減っていきます。そして、少しずつの積み重ねで自己肯定感という心のエネルギーを生むのです。

2学期は学校生活でも実りの秋を迎え、後期には次の学年へ向かう準備が始まります。全ての子ども一人一人が身も心も大きく成長できることを願っています。2学期も保護者・地域の皆様と共に子ども一人一人の支援を続けてまいります。改めまして、どうぞよろしくお願いいたします。